

私の息子は自閉症と知的障害を併せ持っていて、現在は豊中支援学校中学部3年生に在籍しています。私は息子が4歳の時に離婚し、10年間親子二人三脚で頑張ってきました。今は社会福祉協議会で子育て支援に関わる仕事をしています。

支援学校の中学部に進路を決めるにあたって一番困ったのが、朝のスクールバス停までの送りと放課後過ごす場所の確保です。私の勤務時間は8:45~17:15までで、このままでは私が送迎するのは不可能だったからです。しかし小学生の時からこの問題は意識していたので、事前に色々な情報を集めていました。併せて職場の上司と相談し、出勤と退勤の時間を調整していただきました。そして何とか朝だけでも私が送り出せるようにと、主にバスの時間について入学前から支援学校とも話し合いを重ねました。現在は、朝息子と一緒に家を出てバス停で送り出し、そのまま私は出勤、放課後は光明の郷と放課後教室にお世話になる…という形に落ち着きました。多くの方々のお陰で仕事を続けられることに、本当に感謝しております。

このように様々なサービスを組み合わせた生活の中で、息子や私が混乱しないように気を付けていることは、シンプルですが出来るだけ先の見通しをまず私自身が立てて、それを息子に伝えておくことです。幸いなことに息子は、ひとつのパターンを理解できれば、それに沿って行動する方が落ち着くようなので助かっています。あとは困った事があれば、職場や子どもに関わる方など出来るだけ多くの方に相談・共有して、いざという時に連携出来るようにしておくこと。一人で解決できないことでも、相談すれば思わぬアドバイスや情報をいただけることができました。何より自分の状況を理解していただいている安心感は、何にも代え難いです。

この生活の中で、息子自身も成長できたことがあります。昨年新型インフルエンザ騒動の時に、学校は休校、施設もすべて閉所という1週間がありました。その時とても勇気がいりましたが初めて留守番にトライし、それがきっかけで今は半日ぐらいなら一人で過ごせるようになりました。そして電話にも出てくれるようになりました。これは本当に嬉しい成長でした。全て困り果てて必要に迫られ「えいや！」とチャレンジしてできたことですが、子どもの成長のためには、時にこんな冒険も必要なのかも知れませんね。

私が仕事と子育てを両立する中で大切にしていることは、よく言われる言葉ですが「手をかけすぎずに目をかける」こと。将来の自立のために…と言うよりむしろ私が少しでも楽をしたいので、出来るだけ家事をさせるようにしています。「目をかける」は主に心と体の変調についてなのですが、子どもが体調を崩すと仕事に行けなくなるので死活問題なのはもちろん、ストレスが溜まってそうだなとか、様子がおかしいなと思ったら、学校や施設のスタッフの方と情報交換するようにしています。自分の心や体の変調を訴えることが難しい子どもなので、ちょっとした変化を見逃すと大きく崩れてしまうことがよくあるからです。それから「行ってらっしゃい」と「お帰りなさい」という言葉です。私がカギっ子で育ったせいか、自分の子どもには出来るだけこの言葉をかけてあげたいという思いがあります。生計を立てるためには働かなければなりません、少なくとも学校に通っている間は、子どものライフステージに合わせて働く形を柔軟に考えていきたいなあと思っています。